■シリーズ■

授業の充実 向

剣道授業 0 実践報告と必修化 0 課題



山田 栃木県宇都宮市立雀宮中学校 博子 教諭

する態度を身につけさせることと考える。型にはめられることを嫌 ることが自分を高めることにつながるということを学ばせたい ではその意味や成り立ちをわかりやすくひもとき、それを身につけ のとなり、 う現代人に、 いることは礼儀作法などの伝統的な行動の仕方を学び、相手を尊重 これから武道の必修化を迎えるにあたり、 本当の意味での礼法は身につかない。 必修だからと押しつけた指導を行っても、 特に武道が期待されて したがって、授業 一時的なも ま

> とが必要であると考える。 導は授業の中の試合や練習など、それぞれの場面で意識的に行うこ 滑にし、実生活にも役立つことを理解させたい。そこで、 1.し、実生活にも役立つことを理解させたい。そこで、礼法の指相手を尊重する気持ちや態度を身につけることが人間関係を円

に沿っ 盤をつくり、生涯体育へとつなげることが重要である。しかし、 体育を通じての人間関係づくりの充実や、 業に対する生徒の意欲が低下し、積極性がなくなり、技能向上へと の授業が生徒の実態に合わせた内容で指導が行われない場合は、 組み方を見つけることである。そして、豊かなスポーツライフの基 において大切なことは、体力・気力の向上を図ることはもちろん、 つながりにくい。そこで、 まで武道も体育の授業の一環であるということである。体育の授業 また、武道の授業を行う上でまず忘れてはいけないことは、 た内容で授業を作り上げていくことが大切であると考える。 生徒の実態を事前につかんだ上で、 自分に合った運動の取り 目 授 そ

生徒の実態

る 2・3年生では共習で行ってい 授業では、 それぞれ15時間、 時間を計画している。 割合はほぼ半々である。武道 クラスの人数は33名で、男女の クラスある中規模校である。1 (剣道) の授業は、 3年生が7 男女別習で行い ・2年生が クラスの合計 3年生では10 1・2年生で 1年生の 6 ク 19 ラ

の展開を目指している。

が多いこともわかった。

しながら達成感を味わえる授業

ている。 の生徒の特徴を次のように捉え るが、 私は本校に赴任して7年にな その指導の経験から本校

・興味・ とができる。 心に取り組み、 関心が高いものには熱 協力し合うこ

ものや得意なものに対しては体育の授業では、経験のある 心に取り組み、 競争意識が高く、 活動する。 行事には熱

> 学び方を身につけ、 動のし方やおもしろさを理解 がある。 ては全くやろうとし やできそうもない の授業では、 らの状況を踏まえた上で、 生徒自· 仲間と協力 ŧ ない傾然 [身が運 傾向

向きであるが、

苦手

なもの

あたり、 ぶ目的を「礼儀正しさ」や 剣道のイ 生)を実施した(次頁資料1)。 神を集中 かいなかっ りたい」と答えた生徒は10%し が「やりたくない」と答え、 に対しても、 やってみたいか?」という質問 のイメージも多かった。「剣道を スポーツ」などというマイナス に、「厳しそう」「痛い」「危険な というプラスのイメージのほか 「格好いい」「日本独特の文化」 にアンケー そこで、 生徒の実態を知るため メージとしては た。 剣道の授業を行うに Ś ト調査(対象= 事前調査では52% また、 としている生徒 剣道を学 「戦う」 「精 P 年







ってみたい じ内容でアンケー る喜びを感じさせたいと考えた。 剣道を楽しく学びながら、 要があると考えた。そのために、 険なスポーツ」といったマイナ を立てる楽しさやそれを実践す 相手との攻防を繰り広げ、 身につけさせ、正しい打突から ない打突の方法や受け方などを スイメージをまず変えていく必 から、「厳しそう」「痛そう」「危 剣道の授業後に事前調査と同 以上のアンケー 「(来年も) という質問に ・ト調査の結果 ト調査を行っ 剣道をや 作戦 痛く

対して、 なってい 事前調査に比べ自己評価が高く 5 答えた生徒が増えていることか的については「礼儀正しさ」と 事後では53%に増えている。 が21%であった事前調査に対し、 ての質問で、「きちんとしている」 まりと終わりのあいさつについ てのアンケー その裏づけとして、生活につい まく伝わったことがうかがえる。 と答えている。また、剣道の目 さつについての質問項目でも 」と答え、56%が「やりたい 礼法の授業内容が生徒にう 32 % が トでは、授業の始 「大いにやりた わかった。

月刊「武道」 2009. 12

ることが

が短縮できる



大きな「あごあて」は、ズレないばかりで なく、面が直接肌に触れるのを防ぐ



面ひもに透明のホースを通し、からまりに くくする

目 ()

1 垂れをつけた後、回らないか?

のひも・上のひも)

記入者氏名

(資料2) 防具付けチェックリスト

防具付けチェックリスト

チェック内容

胴の高さが、低すぎず高すぎず、斜めになっいないか?

小手のひもがきちんと結んであり、筒の太さた 広がり過ぎず、つぼまりすぎずになっているか?

ホース (後頭部の面ひも) の位置が、目の後ろにくるようにつけているか?

5 結んだ後、面ひもの間に指が入らないか?(

6 結んだ後の面ひもの長さがそろっているか?

結んだ後の面ひもがねじれていないか?

◎3分以内 ○3分~5分以内 △5分以上

【◎良くできている ○まあまあできている △付け直し】

して ホースを通し、からまりにくくかかるため、面ひもには透明な面ひもを結ぶのに一番手間が ②面ひもホース \mathcal{O} 汗を感じたり、 着けられるようになる。 なくなり、 ることで、 のもの を防いで して 湿り具合やに ズレ そのことによって、 を利用)。 が (ホー 生徒は抵抗 な い面め る 接 においが気になら剣道特有の防具 によって、他人の(衛生的にも良 よう内あ 面 スは直径2セ **画が肌に触れるの内輪に挟み込の内輪に挟み込** これにより なく面を ン

たら、

料 2) ら、防具付けチェックリストある程度防具の装着が定着し

人の汗やる いと思うがの下に軍の下に軍の下に軍の下に軍の の事 ④防具付け みを柔らげることにも役立つ。 そして何より、 にくくなると さらには小手 く小手をつけられるようになり、 手袋を購入する やにお を る。 が、 つけ チ る。 を 工 る指導で の内側の革が破 いを感じることな いう効果もある 打たれた時の これにより、 · 算 の ク 剣道 っることを許 IJ 0) 関係で軍手 が望ま ス 卜 0) **(**資 他 痛 薄 n

を正しく指導するのは確かに、日本古来の 15 えるが、 に、 内で、

剣道は、 面 や胴の 腰

ŧ

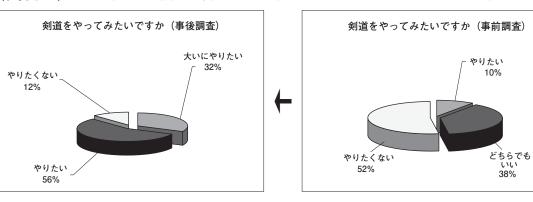
の着脱ができるようになった上いると思うが、スムーズに防具的に反すると考える人も中には防具を簡略化するのは武道の目である。面ホースの利用など、 り、本 おざま おざま ずに授業が終わ 本 来 まな面で指導に時間がかかも未経験の動作が多く、さをするなど、準備段階になをつける際に後ろでちょう \mathcal{O} 楽し かってしまれるでしま いがち った上 かさ お

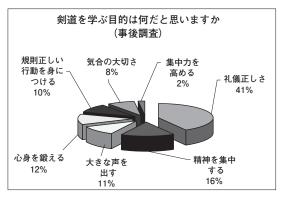
(ほとんどの生徒が、アップを図るのに有 4分以: 分以 正確さ を使 た 7 ツ ~° 、アで確認さ ない、 をチ できるようになっりべての防具の着用もの生徒が、面つけは2 エッ・る時間 互 間を計 せる。 ク に評 IJ ス [価さ 効で り、、 スピー ・を使っ せ

学するのは大切だと日本古来の伝統文化 段と考える。

ある る F で、 本来の 方 法に戻す Ó

(資料1) アンケート調査(事前調査結果と全カリキュラム修了後の調査結果との比較)





剣道を学ぶ目的は何だと思いますか (事前調査) 集中力を高める 礼儀正しさ 気合の大切さ 21% 規則正しい 行動を身につける 6% 精神を集中する 心身を鍛える 大きな声を出す 14%

徒

と感じ

える。 道に親 容を考慮 て、ただのチャンバラや遊びにさせることのみにとらわれすぎ 授業内容を紹介したい。 楽しさを味わわせる授業を展開 ばならない点は、 するということである。 まで剣道の特性を踏まえた上で、 なってしまうのではなく、 ることができれば、 ることの楽し まず、 X ここで、 らない点は、楽しいと感じ。しかし、気をつけなけれ親しむ態度が身につくと考 ジの克服、 剣道に対するマイ 本校で実践して さや喜 剣道 \mathcal{O} び 特 意欲的に剣 を実感する指導内 あく ナ 11 る ス

夫してい

る

部指導員を導入している。細かな指導実践を図るため、 の短縮とい 工夫を行っ ている。 うことから、 とから、防具の防具着脱時間 また、 き め

授業の実践

106

などを中心に、そのやり方を工的な内容になるよう、判定方法行っている試合では、より効果 4のとおりだが、1学年 で身につけるためのス で身につけるためのス がな技能習得のために級 でる。2学年では、 で、それぞれ自分に合った。 た、それぞれ自分に合った。 た、それぞれ自分に合った。 た、それぞれ自分に合った。 いために級審査をいる。また、基本のためのスキルテ ロった、は、 0) 視聴覚のた得意 定着を

1

は、アンケー・おい・他人ので 理由が考え このマイナス このマイナス 剣 理由が考えられる。 けるのに手間がかかる」など ・他人の汗が汚い」「防具をアンケートの結果から、「に 道が嫌いになる要因として防具の工夫 ・ナスイ 防具の メ 工夫を行 ジを克服さ そこで、

①大きな 面をつけ 「あごあて」 いる時には、 耳 0 高 3

 \Diamond

つ

ては資料3

年 組 番 氏名

月刊「武道」 2009. 12 107 2009. 12 月刊「武道」

(資料4)授業計画〔2年生〕

※スキルテスト欄の丸数字は、資料5の丸数字に対応

			11 0 - 7 0 20 1 1 7 1 7 1
時数	学習活動	スキルテスト	級審査
1	剣道の歴史と特性・基本について	①竹刀の連打	
	力を抜く打突(柔らかく)	②竹刀のボールつき	
2	基本・素振り・踏み込み	①竹刀の連打	
	打ち抜ける技・打ち方	②竹刀のボールつき	
		③竹刀の縦打ち	
		④ライン間の往復	
3	防具の付け方・一本打ち	1 • 3 • 4	
	元立ちの方法	⑥跳躍面	
4	体当たり・引き技・追い打ち	⑤連続縦打ち	
		⑥跳躍面	
5	2・3段技	⑤連続縦打ち	
		⑥跳躍面	
6	払い技	⑤連続縦打ち	
		⑥跳躍面	
7	応じ技(出端技)・互格練習の仕方	⑦竹刀のボールつき	3, 4級まで
8	応じ技 (抜き技・抜き胴)・試合・審判法について	⑥跳躍面	IJ
9	応じ技(すり上げ技・面すり上げ面)・試合	⑧面すり上げ面	IJ
10	応じ技 (返し技・面返し胴)	⑨面返し胴	IJ
11	応じ技の研究・試合 (団体戦)	グループごとの課題	2級まで
12	ıı .	に合ったスキルテス トを行う	IJ
13	ıı .	1.41)	IJ
14	II		IJ
15	まとめ		

動の仕方、竹刀や防具の扱い「左座右起」などの伝統的な行・導入の段階では剣道の歴史やことをお願いしている。 ・基本の動きを徹底して指導する際の、示範や個別指導などの補助。 ・基本動作定着のための課題解決学習である、ペア学習の際の個別指導。 ・生徒に対する試合・審判法の個別指導(剣道大会では審判長を依頼し、剣道形を披露していただくことで、生徒たちの剣道にくことで、生徒たちの剣道にくことで、生徒たちの剣道に あった。 動の仕方、竹田 生徒の 指導しやすかった。 する危険性が少なくなっ 多くの目で見るため、 、具体的に次のような効果がまた、外部指導員の活用によ 対する興味が増す)。 方などの説明。 審査をするのに時間が省 とりに目が行き届き、 「つまずき」がわかり けがを た。 人ひ け

(資料3)授業計画〔1年生〕

※スキルテスト欄の丸数字は、資料5の丸数字に対応

*			~~1/	レナスト欄の丸釵子は、賃件3	マングロ教入士(こん)ルロ
時数	学習活動	h		スキルテスト	級審査
1	剣道の歴史と特性			①竹刀の連打	
	礼法				
	竹刀の名称と握り方				
2	構え方			①竹刀の連打	
	面打突			②竹刀のボールつき	
	左右面打突				
3	踏み込み足打突			①竹刀の連打	8級
	(面・小手・胴打ち)			②竹刀のボールつき	
				③竹刀の縦打ち	
4	防具の付け方・片付け方			①竹刀の連打	
				②竹刀のボールつき	
				③竹刀の縦打ち	
5	防具の付け方・片付け方、	面・小手・	・胴の打突	④ライン間の往復	
6	JJ	仕掛け技	(引き技)	④ライン間の往復	
7	JJ	"	(2段技)	⑤連続縦打ち	
8	IJ	IJ	(払い技)	⑤連続縦打ち	
9	基本練習・級審査・互格	練習		1 • 2 • 3	7級まで
10	JJ			1 • 2 • 3	6級まで
11	JJ			1 • 2 • 3	5級まで
12	試合・審判法				
13	基本練習・級審査・試合				4級まで
14	JJ				3級まで
15	まとめ				

(2)外部指導員の活用
対の追求を行うためには、一人
技の追求を行うためには、一人
ひとりに応じたきめ細やかな指導の実践が必要である。個別指導や段階ごとに分けたグループ学習を行うため、本校では外部
指導員(ボランティアティーチャー)を活用している。本校が
ドイー)の登録システムがあり、各学校で必要な時に依頼することができる。
本校では、保健体育教諭の経験がある2名の外部指導員にお験がある2名の外部指導員にお験がある2名の外部指導員におしている。そのうちの1名は私の大学の先輩で、道場の館長を務めたり、地元剣道連盟でも役員として活躍されている。を役員として活躍されている。も役員として活躍されている。も役員として活躍されている。も役員として活躍されている。あるが、立場の違う人に指導をしていただくことによって説得力が増し、さらにきめ細かい指導ができると考え、お招きしている。具体的には、次のような

109 月刊「武道」 2009. 12 2009. 12 月刊「武道」 108

(資料5) スキルテスト一覧

	名称	目的	打ち方	打たせ方
1)	「竹刀の連打」	さ・小さい技 の取得	両肘を伸ばし右腕は肩の高さで構える。始めの合図で、腕は動かさず手首だけを使って元立ちのあごから頭の高さまでを連打する。姿勢は崩さない。掛け声は「面」。	あごの高さに両肘を伸ばして持
2	「竹刀のボールつき」	さ・足さばき を身につける	姿勢を正して、中段の構えの姿勢からバレーボールをつく。手首を 柔らかく使い、もの打ちの部分でつくが、つくボールの高さは、中 段の構えのまま打てる高さ。鋭く ドリブルを行い、足捌きは送り足 でどの角度も移動する。時間内に ノーミスで何回つけるかを競う。	
3	「竹刀の縦打ち」	らえる	て構える。始めの合図で、左手が額の上までくる高さまで振りかぶり、竹刀の柄頭を連打。掛け声は「面」。	る。つばの下のところを肘を伸ば して真横から持ち、大きな声で数 える。
4	「ライン間の往復」	け・打ち抜け る速さを身に つける	二本のラインの間を踏み込んで面を打ち、素早く打ち抜けてライン間を往復する。ラインの間隔は6m程度。掛け声は「面」。	せ、追いかけて振り向いたところ で間合いを取り、さらに打たせ る。
(5)	「6人組で連続の縦 打ち」	け・連続打ち	小手一面一胴一小手一面を連続で打ち、5本中何本「気・剣・体」が ち、5本中何本「気・剣・体」が 一致した技を打てるかを試みる。	
6	「跳躍面」	抜き面が打て る	2本のラインの前に右足をおき、 面を打って腕を伸ばした距離に元 立ちを立てる。始めの合図で振り かぶり、右足が後ろのラインまで くるよう下がる。前に出て面。跳 躍しながら面打ちの連続。掛け声 は「面」。	
	(⑥の応用) 「小手抜き跳躍面」	小手抜き面が 打てる	お互い面をつけて、元立ちが小手を打ってくるところを下がりながら振りかぶり、前に出て面を打つ。小手を抜いて面打ちの連続。 跳躍面同様、2本のラインを使って行う。	その場で小手打ちの連続。
7	「竹刀のボール打ち」		面をつけて中段に構えて準備する。元立ちが投げてくるボールに合わせて踏み込んで面を打ち返す。送り足で抜けていったところで残心。	と思ったところで、ボールを面に 向かって直線で投げる。ボールを
8	「面すり上げ面」	面すり上げ面 が打てる	お互いに面をつけて、元立ちが面を打ってくるのに対して、表と裏を交互にすり上げ面を打つ。足さばきは使わないでその場で打つ。	相手との呼吸を見て大きく振りか
9	「面返し胴」		相手が面を打ってくるのに対し、 表と裏交互に受けた後、手首を返 して胴を打つ。これの連続。掛け 声は「胴」。ひざの屈伸運動を使 うと、勢いのある打ちになる。	のリズムで面を打つ。押し付けて は打たない。大きな声で数を数え

予想されるつまずき	注意事項等	評価 (A>B>C)
初心者に多いのが右腕が強いため、右腕で担いで打ったり押し付けるように打つ。	姿勢を正し、手首を 使って打つ。剣先が眼 に入らないように、元 立ちに注意させる。	A=130回以上 B=129~100回 C=99回以下 (30秒)
前かがみになり、右手で担いで押し付けてつく。歩足で歩く。もと 打ちになる。	姿勢を正し、手首を柔らかく使って打つ。左 とを素早く引きつける。	A=80回以上 B=79~70回 C=69回以下 (30秒)
前かがみになり、右手でかつぐ。振りかぶりが小さい。	打つ瞬間手首を絞ることを意識させる。	A=35回以上 B=34~25回 C=24回以下 (30秒)
走りぬけてしまう。	左足が右足より前に出ない。左足で右足を送る。	A=15回以上 B=14~11回 C=10回以下 (30秒)
本数が多いために、手 と足がバラバラにな る。	後半も、左足の引きつけを素早くする。	A=気剣体一致 で5本 B=気剣体一致 で4本 C=気剣体一致 で3本以下
引きつける足が、前足より前に出たり、引きつけなかったりする。	引きつけをしっかり意 識させる。剣先が眼に 入らないように元立ち に注意させる。	A=45回以上 B=44~40回 C=39回以下 (30秒)
引きつける足が、前足より前に出たり、引きつけなかったりする。	引きつけをしっかり意 識させる。打った瞬間 手首を伸ばし、絞る。 元立ちが、相手の動き に合わせて打つように 意識する。	A=45回以上 B=44~40回 C=39回以下 (30秒)
左足のかかとがついて しまい、反応が遅れ る。手首に力が入り、 すばやく打てない。	反応を早くするために 手首の力を抜き、いつ でも出られるように足 の準備(かかとを少し 上げる)を行う。	A=4本打ち返し B=3本打ち返し C=2本以下の打 ち返し
すり上げの際、相手の 打突を横から竹刀では じいてしまい、剣先が 大きく中心から外れて 打てない。	すり上げる際、左手を 中心から外さないように 心がけ、右手で剣先が 半円を描くように、竹刀 のしのぎですり上げる。	A=25回以上 B=24~20回 C=19回以下 (30秒)
左手が中心から外れて しまう。受ける前に 打ってしまうことがあ る。	打突の際、左手が自分 の中心から外れてしま うと、打ち損なったり 刃筋が変わってしまう ので、左手をおへその 前で絞ることを意識する。	A=40回以上 B=39~25回 C=24回以下 (30秒)



スキルテスト①「竹刀の連打」



スキルテスト③「竹刀の縦打ち」

・専門家を招いた ことによって、 より説得力が増 し、詳しいアド し、詳しいアド だイスをもらう ことができた。 ーズに行うこと

(3)スキルテストの導入(資料5)に、スキルテストを導入していに、スキルテストを導入していに、スキルテストを導入してい

でき、意欲向上につながった。・先生と互格練習をすることがができた。

方、応じ技に役立つ基礎作りが方、応じ技に役立つ基礎作りが自的である。そのために、やり目的である。どうしても、生徒自せている。どうしても、生徒自身は目先の数字にこだわり、い結果ばかりを求め、目標を見い結果ばかりを求め、目標を見ればやるほど評価も上がり、基

111 月刊「武道」 2009. 12 2009. 12 月刊「武道」 110

(資料6) 雀室山学校創道級案杏其淮夷

学年	級	達成項目	具体的な内容	判定
	8級	礼儀作法 すり足 竹刀の握り方	①相手を尊重し、規則や礼法を守る態度を身につけることができる(道場の出入りや授業前後のあいさつ、相手へのあいさつを、目を見ながら大きな声でできる)。 ②左足が右足より前に出ない足さばきができる。 ③竹刀を上から握り、柄の端と端を持つことができる。構えた時の剣先は相手の喉の高さで肩の力が抜けている。	
1年	7級	面・小手・胴打突	①真っ直ぐに振りかぶり振り下ろすことができる。 ②左手を面より高く振り上げることができる。 ③竹刀のもの打ちの部分で打突部位をとらえる ことができる。 ④打突と一緒に気合を出すことができる。 ⑤打突時に、胸・両腕が三角形になるように打 てる。	
	6級	打突+足さばき (踏み込み足・送り足)	①竹刀の打突部で、小手・面・胴が打てる。 ②打突時の竹刀の音と踏み込みの音が同時にできる。 ③打突後、すり足で抜けていき残心がきめられる。	
	5級	体当たり 体当たり引き技	①お互いがポンとはじけるように体当たりができる(ボールがぶつかり合う感じ)。②体当たりをした反動で引き際に打突できる。③素早く引いて間合いをきることができる。	
	4級	2 · 3 段技	①動作を連続してできる。 ②一本目の打突後、左足の引きつけを素早くできる。 ③手と足の動きを合わせて打突できる。	
	3級	払い技(遠間から一足 出て払い、踏み込んで 打突)	①表と裏から払うことができる。 ②払った後、もの打ちの部分で打突部位を打突 することができる。 ③打突と踏み込みを合わせることができる。	
	2級	出ばな技	①タイミングをとらえて打突することができる。 ②体勢を崩さずに、思い切って踏み込んで打突することができる。 ③体全体で打突し、残心を示すことができる。	
		抜き技	①足を使って、からだ全体で抜くことができる。 ②素早く振りかぶり、打突することができる。 ③抜くことと打突を一連の動作ですることがで きる。	
2、3年		すり上げ技	①タイミングをとらえて竹刀をすり上げることができる。②もの打ちで打突することができる。③素早く抜けて残心を示すことができる。	
		打ち落とし技	①タイミングをとらえて相手の竹刀を打ち落とすことができる。②からだ全体で踏み込むことができる。③元打ちにならないで、打突することができる。	

向上を図るのが提示しているが 本も身につく。 日標とさせ、意欲のるが、何より自分の全体的な評価基準も

欲向上につながる。また、竹刀目標や成果がわかりやすく、意によって記録が伸びていくので、 できる。

欲の向上につながることが期待 楽しさを実感しながら技能を習 持たせることができる。 のスキルテストの導入により、向上を図るのが良い。また、こ につけたりなど、技能向上や意 得することができ、 自己の能力を把握することがで スキルテストは繰り返すこと 次の段階への明確な目標を スキル 、男女共習にも大いルテストでの技能の りができ、このこ また、竹刀 得意技を身 さらに、 ど、 感じたり、ライバル意識が出てこのことにより進級する喜びを で行 その授業の最後の時間に証書を

得にもつながり、試合の中でのする。そしてそれが得意技の習とが応じ技習得にも大きく影響 に役立ち、 向 上 に 攻防も激しくできるようになる。得にもつながり、試合の中での 操作の基礎作 上により、 抵抗なく女子が男子

るために、何度も反復し回数を 方を、もう一方は相手が痛くな 方を、もう一方は相手が痛くな が上手な打ち方を工夫させるな るために、 切で 上で、ペア学習を行う。このペそれぞれが練習方法を理解した る。 ア学習では学んだ技の定着を図上で、ペア学習を行う。このペ 指導でポイントを説明 なる基 かを審査で評価している。 上で基本の打突が定着しているいる (相互学習)。そして、その を行わせながら、 で練習を行ってい 審査員は、 技の る基本を身につけることが大技の追求のためには、土台と、) 級審査の導入 (資料6) また級審査のために、 ある。 お互いに積極的な言葉かけ その 級審査を導入して 教師と外部指導員 基本を定着させ 授業を進めて る。そして、 全体 一斉 また、

٢, 部所属の生徒や上達の早 繰り返させるが、なるべく多く級審査は合格するまで何度も ようにペアを代え、 に配慮している。例えば、 の生徒が級審査に合格するよう つまずきのある生徒が組む 上手な者に 生徒 剣道

皆の前で表彰して

いる。

審査に合格した生徒は、



垂れネームに貼付され た進級シール

うことを知り、生徒同士の良いり組むため、教え合い、学び合同じ課題を持つ仲間と協力し、動作定着を図るペア学習では、 的確な指導ができる。の課題が明確になり、 関係作りにもつながっている。 ている。それにより、 意欲向上も図ることがで 、級が一目でわかるようにしームの端に進級シールを貼付た、合格した生徒には、垂れ この基本 指導者も 生徒自身 きる。

こう とけ取り、自然と「ありがとうられ、達成感が大きい。証書をもって取り組む姿勢が個々にみの探求心がわいたり、向上にのにない。証書を 指すように指導している。級までを、3年生では2級を目級までを、2年生では3級か2 自然と正しい基本打ちがくなるため有効である。 き、 繰り返すが、級審査は合格者の増加を図ってい の繰 目分の達成度がちゃーっ目標を明確にすることがでり返すが、級審査は一つ一 が身につ

ネ

し、

(5) 試合の工夫

で、授業において積極的に取り達成感を味わうことができるの ような工夫をしている。 入れている。しかし、判定方法で、授業において積極的に取り など難しい点も多いの しろさや勝ったことなどによる 試合では、技が成功するおも で

113 月刊「武道」 2009. 12 2009. 12 月刊「武道」 112 先に述べたように、

授業後に

まとめ

を行っている。しることを大きな目的 い判断で意思表示を行う。 みの音、残心などをみて、素早 一番に考え、次に刃筋や踏み込 どちらが大きく出しているかをちとしている。審判は、気合を 判定で審判の旗が多いほうを勝 基本打ちによる判定勝負を行っ 能が未熟なため、 いる。 ・胴の基本打ちを交互に行い、 中では有効打突で勝敗が決 場合が多い 判定勝負は、 基本の定着を図 試合時間45秒 その か し、 場合は、 面・小 まだ技

にたくさん打ち込んだほうを優 優勢と考える。次に技を積極的 に大きな気合が出ているほうを 出やすく、 る試合者のほうが積極的に技が 判定の基準は「気合が勝ってい 内容による判定で勝負を決める。 が決しなかった場合は、試合の2年次では、有効打突で勝敗 」ことを理由に、まず試合中 有効打突を決めやす

だときの足音が三つ一 込んだ時の竹刀の音、 ②審判基準の なかなか三つそろうことはない えることを条件としているが 有効打突の条件と も同様として 0) 打突時の 致を意識させる

して

気

の有効打突が

決

7

15

114

視聴覚機器の活用

究では、

そ

れぞ

ため、

ک

打ち

打突につながるようにさせてい込みが足りない場合は審判から、審判はどんどん旗を上げる。また、踏み 3 り、 筋が完璧でなくても、タイミンそこで、打突は打ちの強さや刃 グや音などを見逃さないように の決断力が高まってくる。 ている)。これらを行うことによ くても一本にできることも教え る(技によっては踏み込みがな 「何本でも勝負」の導入 技の積極性が高まり、 審判

で「何本で、上を図る 体力の向上を図るため、運動 「何本でも勝負」を行っていの確保を目指し、制限時間内 「何本でも勝負」のやり方は、

> 小手、胴)あまった後、主 本でも勝負」の導入により、最ほうが勝ちとなるが、この「何 再開する。最終的に本数の多いどり、「〇本目」の合図で試合を その後、 後まであきらめない集中力や粘 つなげている。 り強さを養い

緒に聞こ 踏み込ん

スの枠を超えた競い合いの場をいる。このことに、 対戦を行い、教師との交流も図結成した学年の教員チームとの まる。 グルー。 っている。この剣道大会は、自することで意欲や技能向上を図 機会となる。またそれにより、 分の実力を試すのにとても良い 表を提示し、対戦チー また、その際は事前にオーダー 優勝チー ・プやク ラスの団結力も高 ムには、 ・ムを予告 特別に

お互いが中心線までも \bigcap_{0} **(**面

として学年剣道大会を実施して 授業の終わりには、総まとめ 技の多様化にも ペア学習の中で、これらの視聴技の追求を図っている。また、違いを発見しながら話し合い、の自分の動きを見比べて、その らに、 の自分の動きを見比べて、そのV)を置き、示範の動きと実際 できる視聴覚機器(マジックT ソコンを2台用意している。さ 覚機器を活用

ることにより、

を瞬時に引き出り授業では、それで もって練習に取り組めるようパを瞬時に引き出し、イメージを 得意技の

って

D を利

それぞれが見たい技

VDを利 い る D

した

自分の映像を見ることが

視聴覚機器を使用した学習(右筆者)

協 力 互 につくようになる。 して研究する態度などが身いの言葉かけが活発になり、

技術の向上に役立つばかりで 練習に取り組める機器の活用は、に引き出せ、イメージをもって いても大 に引き出せ、イこのように、 相互学習につながる点に イメージをもってに、見たい技を瞬時 お な

教育専門 **Q&A**

先生方が日頃抱いている疑問や課題を、 全国の「同僚」と共有し、知恵を出し合いながら 答えが導けるように、応援するための 教育専門 Q&Aサイトです。 (tesio) Moderation (tesio) Mod

「日本教育新聞」購読者特典

*日本教育新聞社の運営サイトです。

"先生方をもっと応援していこう!'

ホームページが「先生解決ネット」。

を合言葉に、昨年オープンした

N 日本教育新聞社

教育を応援するコミュニケーションサイ|

今日の生徒の言葉… 生徒指導で最近悩んじゃうなぁ。

し、試合もおもしろくなっていについたことから応じ技が上達き、さらに小さく速い打ちが身 身につけば、体力差がある男女 ったようである。 このように、 痛くない打ちが

の特性を知り、幅広い相手との同士の試合も可能となり、剣道

行ったアンケート調査では、多くの生徒たちが「また剣道をやってみたい」という結果が得らってみたい」という結果が得らってみたい」という結果が得らってみたい」という結果が得らってみたい」という結果が得らってみたい」というにより痛くない打ちが身についたアンケート調査では、多 うことができる。 技の攻防で、その楽しさを味

により、 業に取り組めているのは、外部ように生徒が意欲的に剣道の授いる。そういった意味で、この ちなど、 計画・指導内容について、もっ員と共に授業を行うための指導 るため、外部指導員を招くにあの実態に合わせた授業を展開す いる。そういった意味で、このができ、非常によい効果を得て 今後の課題としては、 指導員の活躍のおかげといえる。 たっての事前交渉や、 外部指 技能の向上を図ること剣道経験者と組むこと 導員 の導 入では、 外部指導 より生徒 元立

ことが必要であると考える。 を をす

る

業を行う上でこれからも考えて一つとされている。効果的な授授業を展開する上での三本柱の た練習 おきたい事項である。 ても、 は、 なり アド とが重要となる。「知識」 も含む)においては、 た級審査におけるペア学習 新しい学習指導要領にお 3、「技能」「態度」と並んで、新しい学習指導要領におい Ó |内容や、 知識の定着と、工夫され 「知識」を身につけるこ イスを行うために、 プ学習 (本稿で紹介 お さらに言 Ħ. それ など 6 1 が

www.kyoiku-press.com

アクセスはこちらから

イラストレーション:石ノ森章太郎

新聞を通じて得た情報を、必要なときに引き出し、

応援するための教育専門 ニュースサイトです。

教育専門

より日常的にご活用できるように、

月刊「武道」 2009. 12 2009. 12 月刊「武道」 115

シリーズ

この経緯から、学校独自のもの級から行われるようになった。査規則」を改正し、級審査は3 よいかなど、 極めが難しいことが課題とな試合においては「一本」の 直す必要があると考える。 、どの級まで認定してから、学校独自のもの その内容は検討し

なり、まだまだ検討しなければ教師側からすると大きな課題とかるなど、空き時間が足りない実際は準備や片付けに時間がか 組むようになり、 身につき、 視聴覚機器 っとも、本稿で紹介しるような授業を展開し までつなげることができたが、 徒自らが「思考・判断」できかということを総合的に考え、けをどのように工夫したらよ 本稿で紹介したように になり、意欲の向上に生徒が積極的に取り の利用で、 「知識」が たたいできる を共通理解させておく必要がある大通理解させ、「一本」の条件が、生徒同士がお互いに審判がが、生徒同士がお互いに審判を行い、公平さを出すためには、を行い、公平さを出すためには、を行い、公平さを出すがある。これもまた、「知識」の る。 行い、公平さを出すためには、が、生徒同士がお互いに審判得につながる問題かもしれないる。これもまた、「知識」の

の条件 通り

あ

たかという

以上、私の授業実践例を紹介する中で、その課題についてもする中で、その課題についても触れてきたが、これらのことは、触れてきたが、これらのことは、触れてきたが、これらのことは、がかと考える。場所、指導者、道具の問題などを踏まえ、必修化においては今後もさまざまな検討をしていかなければならないが、冒頭にも述べたように、「生徒に興味・関心を持たせながら、礼儀作法などの伝統的な行ら、礼儀作法などの伝統的な行ら、礼儀作法などの伝統的な行いが、冒頭にも述べたように、「生徒に興味・関心を持たせながら、礼儀作法などの伝統的な行いが、冒頭にも述べたように、 る態度を身につけ、動の仕方を学び、相 を目指すこと」が、まずもって活にも活かすことができる授業 した内容が、今後の授業作 重要であると考える。 それが実生 今回紹介

快適で安全な都市空間の創造をめざす …東洋実業グループ

- ●ビルディング・トータル・マネジメント ●清掃等建築物の環境衛生管理
- ●空調、電気、水系統等諸設備の運用、管理●警備、保安、駐車場管理
- ●原子力セキリュリティ及び施設メンテナンス●工場、ダム等のセキリュ
- リティ ●案内、受付他料金徴集業務 ●公園等のグリーンメンテナンス
- ●ビルメンテナンス用ソフトの開発販売 ●バイオ研究開発
- ●その他建築物の運用、管理に係る一切の業務



代表取締役 横田 正弘

札 幌 本 社/札幌市中央区北六条西22丁目250番14東実ビル TEL(011)612-1911(代) 東京本社/東京都新宿区西新宿1丁目26番2号新宿野村ビル TEL(03)3345-0531 営業 所/函館・室蘭・苫小牧・千歳・恵庭・小樽・余市・岩内・石狩・岩見沢・旭川 士別・富良野・占冠・帯広・北見・釧路・日高・遠別・深川・埼玉 海外事業/株式会社東洋実業マレーシア/東洋実業シンガポール PTE. LTD./東洋 セキュリティ&ビルディング・マネジメント(香港)LTD./

2009. 12 月刊「武道」 116